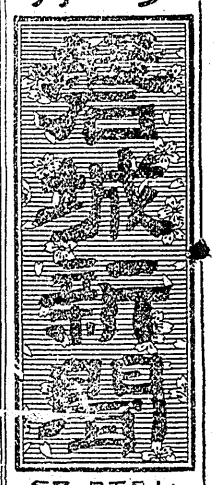
夕刊



十月五日　發行

定價一ケ月金六拾錢　郵金五拾錢
廣告料　一段金六拾錢　二段金九拾錢　三段一回金壹圓
昭和四年十月廿日第三種郵便物認可
昭和四年十月廿日第三種郵便物認可
發行人　柏木衛
印刷人　柏木衛
發行所　磐城新聞社
電話　磐城（タイプライター）二番　平（二）二番
郵便振替口座　仙臺五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

漫筆餘瀝

小野生

△辯護士の天職とは何乎▽

今日の如く人權の伸張を重するの時代は蓋し無いと云ふても差支なからう。豫審の結果、有罪として公判に附されたる場合に於てもて徒らに罪人視して、人格を無視し、昔日の來行所のそれの如きは、絶無と云ふてよからう。

特に辯護士法制定以來。辯護人たる立場に於て、誤れる見解に出づるものが往々に散見する所である、所謂辯護人は、被告の爲めには有罪を無罪と言ひ捲くり邪をさへ正なりと論爭するのが天職であるかの樣に考へ違ひをされて居る場合が多いのであるが、これが抑の謬見となつて、却つて一般不量見等流をして醜行法名を敢てなさしむるのでなからうか。

然らば辯護人の眞の天職とは何乎と云ふ問題に逢着する、これには最近或事件の爲めに來平されて其抱負の一端を語られた、中央法曹界の大權威者塚崎辯護士の語る處によると斯樣である。

少くとも辯護人たる職にあるものは、此の二項に立ヤ脚せねばならぬ、一は判官共の審理は勿論、裁斷に對して正しき判決を與へしむる爲めに環視の役目を附與さ難き理由を納得せしめ依つて、裁判決定の宣告に承服せしむるに努めざりしは千萬天職を忘れたるものとして慙愧に堪へざるものがあると語られたのである。

吾人は常に辯護士の職務に對して正しき見解を有せざるを遺憾とせしに今塚崎辯護士のこの談話を聽いて初めて辯護士たる、重大なる使命を、動かす可らざる天職の存する事を知るを得たる處から茲に紙面を借りて一般の參考にしたいと思ふ婆心に出でたるものである。

。誤。昨紙掲載アラベスク社主催短歌會詠草中、小山田滋氏の分は『立ち枯れの』と『穂すゝきの』の二首にして以下『巷にも』『垣の根に』の二首は吉田儻氏の作に付訂正す。

特に塚崎辯護人は、共産黨の事件に就て、官選辯護人たるを辭した事に就て此又左の如き述懷を漏して居るに見てもその如何に電大なる使命が含まれてあるかが判かる、即ち無政府主義共産主義の被告辯護に對しても、其犯罪の性質を自覺せしめて、能く國法の犯を爲めに環視の役目を附與さ難き理由を納得せしめ依つ

時代警語

○精密なる觀察はあらゆる大功の元素なり……（エドマンド、スペンサー）

○學は志を立つるに在り……（山鹿素行）

○汝若し成功を望まば不屈不撓を親友とし經驗を良顧問とし戒心を兄とし、希望を守護神とせよ……（アヂソン）

秋冷集

（一）

島田忠夫

病妻を率て平町に淹ること數日、秋冷とみに加ふ。

○日をつぎて降る秋雨の寒けきに今宵は蟲のこゑもせぬかも

○さむ〳〵と土うつ雨や庭の上のいさゝ竹群音さやぎつゝ

○秋の夜のやゝ寒けきにしはぶける吾が病み妻をいとほしむなり

○雨ふりて寒けき空をあはれあはれ雁は鳴きつゝ渡りけるかも

○わが妻の藥をまへる晩酌先生はなしはいつか歌しうつりぬ

○とゝのへる木兎莊園の木々のいろ秋もふかめる影うごくはや

湯の網小唄

なかの・ひさを

堀つてサ　湯の網
黄金花咲くヨ
湯ぶれがカ〳〵
湯のにほひよ
エイエイエイトサツ

浴びてサ　湯の水
嬉しい心ヨ
ひやり流して
湯のさわりヨ
エイエイエイトサツ

ひいてサ　あの娘の
赤い水袖よ
かいて黒髪
慰しい心ヨ
エイエイエイトサツ

拈華微笑

雨の車中に故戰友を偲ぶ。惻々人を動かす菅野淺雄君の通信

◇

只幾ら來るか問題の中小商工業者低利資金

◇

口をモグモグ。往時を語る十六日平町の敬老會

◇

昨夜風伯大暴れ七滝肝を潰す

◇

愈々霜れ〻ぞ。馬も肥えやう、おなかも空かう

◇

泣いてサ　一夜の名ごりおしいよ
泣いて送らる
別れる心ヨ
エイエイエイトサツ

案じ

茨城　涼香

おなかこわしたあなたをあんじ
お三夜祭に腹がけ縫ふて早ふ癒りますやうお手を合したわたしじやないの。

植田から風流生

『二點間の最短距離は直線なり』二點間の內で最も近の的とはなり漸次今日の如く理知らず、さもしい女の道は直線より外にはない或き大掛りな全國的運動へと心だと世間から笑はれる寧る人が或る希望へ向つて精現實的に歩を進めるに至つろのこと引返して一緒に死進する時、現在から希望へたのである。而して此の事のうかとも此處で自害しよの殿堂迄をこゝでは二點間業創造の根幹こそは彼の忍苦の數ヶ年間に培はれたと言つて置きたい。此が二苦の數ヶ年間に培はれたも點間の最短距離たる直線がのでなくて何んであらう。發見される事が出來たら彼そして少さな一つの標の實等の希望も案外容易に獲得の中には標の大木となる素されるに相違ない。處が此苦提を弔らへとおつしやつの直線たるや、仇や愚の努とを彼れは此の間に餘りに果てなされた方々に對して力でしては到底發見し得らも良く知つたであらう。そ罪滅ろぼしに出家なさらうれるものではないと云ふのして此の二點間、即ち現在お柳はふつと氣が注いたとした大鹽さまのお志も殘である。そして吾々の如き念ながら水の泡になつたに急いで髷をかき撫して亂髮に至つては寧ろ曲線乃至逆念を頭に振り冠つたまゝ庭先への直線さして完全に發見ついては、和女が其の一念の處分を伺ひ出た。

『あれッ！大變だッ！』

家族は寢衣の儘表へ飛出すやら家財を運び出すやら右往左往に混亂する氣配

『いや〳〵それでは返つて〳〵』

續いて聲が聞えた

『あッ、三好屋さんが火事だ、火事だッ！。皆起きろ

『あの娘の赤い水袖よ』

『ラヂオ』

……六日…（木曜）…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操
△七、〇〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象
△九、一〇　料理献立（鯖の魚田）河口拾松
日用品値段
△一〇、三〇A　家庭講座（運動界と衛生）醫學博士岡田道一
△正午A　時報　氣象
△後〇、〇五B　三曲（一、末の契　二、まゝの川）
△〇、四〇A　ニュース
△二、〇〇A　家庭大學講座（倫理學品性）東京帝大講師大島正德
△二、二五　五、三〇A　運動競技（六大學野球リーグ戰試合狀況…慶大對帝大二回戰）雨天順延
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇　ニュース
△五、三五A　趣味講座（高山互樂名人の話）六段…萬柏亭
△六、〇〇A（子供の時間）室內樂（一、埴生の宿變奏曲　二、秋の歌　三、アルプスの羊飼ひ）
△六、二〇A　コドモの新聞
關屋五十二
△六、二五　英語講座（中等科）ジョージ、ケイジャー
△六、五五A　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー
△七、〇〇A　ニュース
△七、三〇A　趣味講演（岩木山に就て）弘前高等學校教授小岩井彙輝
△八、〇〇B　獨唱と管絃樂大阪コンサートオーケストラ
△八、三〇A　放送舞臺劇（花柳巷談…追善二筋道）明治座より中繼
△九、三〇A　時報
△九、三一A　滿洲よりニュース　氣象

講談　お蘭陀お蝶

（150）

渡邊默禪作
布施長春畫

『あゝ何としよう生死を俱』

『あゝ何としよう生死を俱』と盟つたお方さまを後に我を鞭打ち、我を努力さすべき我である。

餘りに驕が激しいので此の家の者も驚いて目を覺まし、したものと見えがらりと座朝の雨戸が開いた。

『あッ、三好屋さんが火事だ、火事だッ！。皆起きろ

『あれッ！大變だッ！』

家族は寢衣の儘表へ飛出すやら家財を運び出すやら右往左往に混亂する氣配

お柳はふつと氣が注いた急いで髷をかき撫して亂髮に振り冠つたまゝ庭先

cafe　喫茶と食事　花園

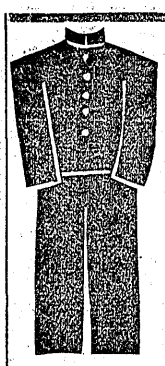
番六四話電　麟南館樂來

御料理　八千代
平町田町　電話三七五番

秋ヲ代表
イタシマス洋食
松茸ソテイー
松茸フライ
松茸ライス
ビフステーキ
メンチボール
チキンソテイー
紅茶
上御酒二十五錢

洋食。喫茶。宴會
コンパル
電話六六六番

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先ニ（松崎ニ）
三九二タクシーヘ
（デンワ、ミクニ）



學生服賣出

溫かい丈夫な黑小倉
通學服を豐富に取揃へ
特價にて提供

小學用（長ズボン付）
¥0.85より
仝……特製品　¥2.00より
中學用特製品　¥2.90より

ふかや洋服店　平二番203

夜診療

腸胃科
內科
十二指腸虫病
專門部

泌尿科
婦人病
專門部

松村松藏醫院
（平町南町電一〇七番）

內科
外科
花柳病
內臟
外科
一般

入院隨意
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）
安齊外科醫院

秋雨の中を行く車中

今は亡き戰友を懷ふ

平町長橋町出身　菅野淺雄君（通信）

（承前）戰ひやんだと思ふ瞬間我が○隊では四名の重新らしき涙は戒戎の袖をぬ輕傷を出したとの事驚くも束の間私の戰友佐藤二年兵乍らも汽車は目的地に着し殿が腹部貫通銃創を受けたました。○○隊吉敦間の警との事にて夢かとばかり驚備交代致すべく同日午後一き乍らも戰後の警戒に就き居りし時午後三時哀れ護國爆撃され○隊の軍曹一名負の鬼として天國に旅立れし傷、かくの次第にて南滿と事は返す返すも殘念です。はちがひ全々情況惡化致し同じく○中隊齊藤特務曹長安閑として居られず、警備殿も敵に狙撃され胸部及左兵等死力を以て奉公の念に腕貫通にて即死致しました腕を捧げて居ります。北事は誠に殘念と言ふか何と滿の全々山中樂しみとして言ませうか、實に惜しむ可故郷の通信のみに御座いき事で御座いませう。九月したが、先日以來貴社の熱二十二日午前五時雨空を氣誠ある御慰問に懐かしき故遣ひ乍ら二勇士の遺骨を後郷の情況が知り居ます事はにして吉敦鐵道の警備交代全く幸福の至りと貴社御蔭すべく出發しました、降りて全力を捧げて居ります。北出しそうなる模様も二驛も樂しみとして過ぎしかと思ふ頃より秋風ん、茲に謹んで厚く御禮冷めたき雨が列車の窓を打上ます。（後略）つて流れる様が何となく二勇士の涙雨かの様に思はれ

中小商工業資金

愈々近く融通

伏見町長陳情經過談

中小商工業者低利資金貸出促進陳情のため出福中の伏見町長は昨四日歸平したが之の經過に就て左の如く語つた

貸出が今日まで遷延したのは申込者の資力調査の爲である、即ち六月以前の申込み三十二組に對しては全然融通せず六月以降現在迄の申込五十六組に就て農工銀行が調査の上其中に交つてゐる前の申込者を分離することゝ償還方法を一層嚴重にする爲十人以上の連帶者の資力調査に時日を要した爲で縣でも市街地の融通には相當考慮を拂つて居る模樣で近く融資される筈である

東北大會を前に

平倶徐に陣容を整ふ

最高峰奥津大坪組以下猛練習

磐城軟球協會主催第五回關奥津、大坪組を始め精鋭を東北庭球大會は愛報の如く二十三日午前八時（雨天の際は三十日）から磐中ABコートに於て開催されるが從來の優勝記錄は第一回磐炭、第二回仙鐵、第三回平倶樂部、第四回古河炭鑛の順で平倶樂部では第三回當時の榮譽を再び獲得すべくすぐつて猛練習中であると比較的安價の食糧を購入消費する事によつて幾分なりとも生活の重壓より脱せんとする一部有志から出來た石城郡政府拂ひ下げ期成同盟委員會（事務所綴驛前）では其の目的を達成する前提としてはその目的を達成する前提として昨四日左記歎願書を郡下各町村長に郵送した

歎願條項

一、町村當局は早速政府の拂ひ下げを受け貧困階級に原價にて配給して戴きたいと思ひます

一、町村當局は拂ひ下げ米の原價配給の資料として貧困者の家庭、生活程度等を調査して配給の際不正買主やその他不正事件の一切を一掃する便に供して戴きたいと思ひます石の二個條は貧困階級が失業救濟事業に依つて目鼻つけられたのに魂を吹き込むものであり、是非共今後貧困者階級が生きて行くに必要な事で御座いますから早速實踐して戴きたう御座います。

政府拂下米

購入運動開始

期成委員會創立

秋の高月に躍る

郡下五十五校の精鋭

來月六日磐中で兒童競技

郡下五十五校から選拔されたる小學校兒童の競技會は來月六日午前九時から磐中グラウンドに於て開催されるが各區より一種目三名以内一名一種目の出場で三十一

猛る疾風に波浪高く

乘員を傷け舟を呑む

昨夜沿岸一帶の大時化

今曉零時十分頃植田町大字（二〇）と共に八馬力の所有船で渡邊親子を發見救助した小名濱字濱柳葉藤八（四三）所有を小名濱港へ廻航の途中行方不明になつたので部落民は警鐘を亂打して青年團、留中激浪の爲め破壞流失の消防組等を總動員して之が喜雄（二九）同平太郎（二七）の三名が約一丁程沖合に漕ぎ出した處怒濤の爲に轉覆した喜雄は右腕に平太郎は左肋骨に各全治一週間の傷を負ひ辛じて同海岸に泳ぎ着いたが之と相前後して同人所有繋留中の四馬力漁船も纜を斷ち切つて沖合に流され外同字漁業渡邊熊太郎（五二）も長男市（二六）次男國雄（五二）の五馬力發動機船が同濱に繋方不明になつたのは警鐘を亂打して青年團、消防組等を總動員して之が救助に努める一方指導船磐城丸に捜査方を依頼して出動附近沖合を探査中平潟沖航避難すべく同人と實弟登

滿洲行

蔡田中尉

第八十八信

目醒しき騎兵第〇〇隊の奮戰（續）

◇頭を廻らせば戰場を掩ふものこれ唯數百の敵の死傷者！眞紅の血痕は時ならぬ時一帶の荒原を血の海と化せめた、叢に遺棄した銃器彈藥陣中に放置した砲車、彈藥車これ皆襲撃の壯烈を物語らざるものはなかつた時正に午前十一時——○隊は夕陽は漸く迫つた、月影は一旦頭拈北方に兵力を集結淡く楊樹の枯枝に懸つた。○○隊の奮戰してこれを東方或は折しも其刻限—チチハル南方三粁大戸屯台上に當り月を射撃してこれを東方或は東北方に後退潰走せしめ更影濃き一團群を望んだ固唾に途上各所に敗殘兵を掃蕩を呑む事數刻紛れもない敵をしつつ猛烈果敢なる追撃戰影だ、聯隊長は直ちに拔刀をチチハル南端に向つて强と低聲を以て傳ふれば各將行したのである兵鐙を深め刀緒を締る。

◇この急進なんぢよう◇聯隊長更に『襲へ』の號令一下二百の悍馬は起つたまるべき敵は第二第三の一齊に敵の眞只中に突入東北方に後退潰走せしめ更影濃き一團群を望んだ固唾に途上各所に敗殘兵を掃蕩を呑む事數刻紛れもない敵を放つて抵抗するものもあしつつ猛烈果敢なる追撃戰影だ、聯隊長は直ちに拔刀をチチハル南端に向つて强と低聲を以て傳ふれば各將行したのである兵鐙を深め刀緒を締る。

◇聯隊長更に『襲へ』の號令一下二百の悍馬は起つて一齊に敵の眞只中に突入す、忽ち亂るる軍馬の群車輛の列敵は御兵の一隊だ、修羅場と化した、敵は悉く斬撃刺突した。

◇呻聲は銃聲　蹄聲と相奏づる喇叭の音に部隊は集結したが零下二十餘度の寒氣も物かは勇士の面上は汗にみじみて埃と血痕に汚れて居た。戈をおさむる遑もなく聯隊は更にチチハルに急進して驛二粁の敵の警戒陣地一旦頭拈北方に兵力を集結淡く楊樹の枯枝に懸つた。○○隊の奮戰してこれを東方或は東北方に後退潰走せしめ更影濃き一團群を望んだ固唾に途上各所に敗殘兵を掃蕩を呑む事數刻紛れもない敵をしつつ猛烈果敢なる追撃戰影だ、聯隊長は直ちに拔刀をチチハル南端に向つて强と低聲を以て傳ふれば各將行したのである兵鐙を深め刀緒を締る。

◇この急進なんぢよう◇聯隊長更に『襲へ』の號令一下二百の悍馬は起つて一齊に敵の眞只中に突入す、忽ち亂るる軍馬の群車輛の列敵は御兵の一隊だ、修羅場と化した、敵は悉く斬撃刺突した。

◇呻聲は銃聲　蹄聲と相奏づる喇叭の音に部隊は集結したが零下二十餘度の寒氣も物かは勇士の面上は汗にみじみて埃と血痕に汚れて居た。戈をおさむる遑もなく聯隊は更にチチハルに急進して驛二粁の敵の警戒陣地

公會堂の着工で

失業者浮び上る

去月中の紹介所成績

平職業紹介所去月中の成績

	求職	就職	求人	就職
男	一六五	一七八	一六四	四三
女	三四	一五六	二六（三四）	二六（三四）

で之を前月に比すれば求人

尊屬殺人（未遂）と婦女凌辱

陪審辭退の爲平支部で公判

須賀川町字馬場東西間木武之（三三）が小名濱町に在住する實父金藏（五三）の素行に憤慨し同人にピストルを發射負傷せしめた尊屬殺人未遂及婦女凌辱の事件は既報の如く何れも陪審を辭退した爲一件書類が今五日福島から廻送されて近く平支部で公判を開く

小名濱の殺人看屋

來十三日平支部で公判

小名濱町字古港魚行商月山村高坂磐炭坑夫武田康藏（三二）が六月十四日內郷於て嘉信（三三）と口論の末出刃庖丁を揮つて同人を殺害した事件の公判は來十三日平支部で開廷する

登錄既に三百名

湯本失業者殺到

匡救事業着手に

湯本町では時局匡救事業として來十日から工費一萬圓を投じ大字水野谷裏から停車場通に至る道路排水工事を着工した爲である

前回繼行開廷懲役二年の求編入から該地郵便物の取扱區分が非常に復雜となり從而郵便物肩書の良否に依る配達上の遲速を免れないことゝなるに付將來は必ず新區名を記載することにして欲しい從來通り東京府何町とのみ書かれると郵便局では其區分に不尠不便を感するばかりでなく之が調査の爲に遲延を來す樣な場合もあり双互の不利不便となるから吃度面倒でも新區名を冠記する事にして戴きたい平郵便局の希望とある

區名	所屬町名
品川區	品川、大崎、大井
目黒區	黒目、碑衾
荏原區	荏原
大森區	馬込、東調布
池上、入新井、大森	
蒲田區	矢口、蒲田、六郷
世田谷區	世田谷、駒澤
澁谷區	澁谷、代々幡、千駄ヶ谷
淀橋區	大久保、戸塚、落合、淀橋
中野區	中野、野方
杉並區	和田堀、杉並
井荻、高井戸	
豊島區	巣鴨、西巣鴨
高田、長崎	
滝野川區	滝野川
荒川區	南千住、三河島、尾久、日暮里
王子區	王子、岩淵
板橋區	板橋、練馬
足立區	千住、梅島
向島區	吾嬬、隅田、寺島
城東區	龜戸、大島、砂
葛飾區	金、新宿、奥戸、本田、南綾瀬
江戸川區	小松川、松江、小岩

實る秋

農村スケッチ　〔去〕

爽かな晨の途に

梨賣り商談

葉雜頭に露の玉が光る

平町郊外點景

『よき日は明けぬ、さわに依つて雄々しくも更生せやかにいざ起き出でゝ勇しめんとする百姓さん達がましく我も勵まん、今日曉を報ずる雞鳴を耳にしなの業』

がら煎餅蒲團の中に回まり之こそ疲憊の現農村を自力迎ふべき一日を前にしてそ

敬老會

平女子青年團主催

平女子青年團では十六日午前九時から町內八十歳以上の高齢者五十餘名を招き第二校に於て敬老會を催し記念品の袖無しを贈呈するが當日は餘興として兒女の唱歌遊戯あると

二千圓詐欺遂未事件

けふ平支部で懲役二年求刑

入遠野村字大瀧自動車業鈴木己之吉（三二）が同村志賀義春から二千圓を詐取せんとした事件の公判は今五日午前十一時から平支部に於て中島裁判長係り關口、竹內判事陪席、市川檢事關與門傳、眞木兩辯護人立會、前回繼行開廷懲役二年の求編入から該地郵便物の取扱區分が非常に復雜となり從而郵便物肩書の良否に依る配達上の遲速を免れないことゝなるに付將來は必ず新區名を記載することにして欲しい從來通り東京府何町とのみ書かれると郵便局では其區分に不尠不便を感ずるばかりでなく之が調査の爲に遲延を來す樣な場合もあり双互の不利不便となるから吃度面倒でも新區名を冠記する事にして戴きたい平郵便局の希望とある

澤田君

高文合格

宇北好間字籬平町五丁目丸市屋龍口材木店主の實弟に當る好間村大町とのみ書かれると郵便局では其區分に不尠不便を感ずるばかりでなく之が調査の爲に遲延を來す樣な場合もあり双互の不利不便となるから吃度面倒でも新區名を冠記する事にして戴きたい平郵便局の希望とある

新區名を

明記の事

東京市の隣近各町村

艶罪黑白

◇先達さる御歴々の御座敷で、東京の或る處ならではみられぬ一大珍藝を演じて以來パッと人氣が出た湯本新亀の小てふ箱子◇相變ら來るゝんでせうか◇群助けて呉れえ！

投槍

投書歡迎

◇呻聲は銃聲　蹄聲と相奏づる喇叭の音に部隊は集結したが零下二十餘度の寒氣も物かは勇士の面上は汗にみじみて埃と血痕に汚れて居た。戈をおさむる遑もなく聯隊は更にチチハルに急進して驛二粁の敵の警戒陣地一旦頭拈北方に兵力を集結淡く楊樹の枯枝に懸つた。○○隊の奮戰してこれを東方或は東北方に後退潰走せしめ更影濃き一團群を望んだ固唾に途上各所に敗殘兵を掃蕩を呑む事數刻紛れもない敵をしつつ猛烈果敢なる追撃戰影だ、聯隊長は直ちに拔刀をチチハル南端に向つて强と低聲を以て傳ふれば各將行したのである兵鐙を深め刀緒を締る。

◇この急進なんぢよう◇聯隊長更に『襲へ』の號令一下二百の悍馬は起つて一齊に敵の眞只中に突入す、忽ち亂るる軍馬の群車輛の列敵は御兵の一隊だ、修羅場と化した、敵は悉く斬撃刺突した。

◇呻聲は銃聲　蹄聲と相奏づる喇叭の音に部隊は集結したが零下二十餘度の寒氣も物かは勇士の面上は汗にみじみて埃と血痕に汚れて居た。戈をおさむる遑もなく聯隊は更にチチハルに急進して驛二粁の敵の警戒陣地

お醤油は……ヤマフル
鹽屋
味噌醤油
たひら正宗
調節食料品
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

酷判定廟霊
東京市本郷区湯島四丁目五番地
湯島聖堂總本部・神藏館
新　十三
九月十日　庚子　蓂木曜
先負　六
平日　七　宿日　奎